

道路はどうやってできるの？

～道路ができるまで～

A) 道路をつくるには、まず地域のニーズや現状を踏まえ、公共事業評価によりその工事が本当に必要か、なぜ今やらなければいけないのか、費用に対する効果は十分見込まれるかなどを判断します。これらを踏まえ、必要性や緊急性などが高い道路から順番につくります。
道路は、おおよそ次の手順でつくっており、工事に入るまでには、いろいろな仕事を行っています。

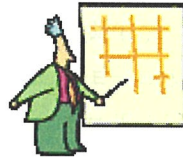
1. 調査・計画します。

道路が必要な地域の土地の状況、交通量や自然環境などを調べます。
調査をもとに、快適で安全な交通を確保するために、どんな道路が必要か計画します。




2. 説明会をします。

地元の住民の方などに、道路の必要性、工事の期間や進め方などについて説明します。
住民の方の理解と協力を得た上で、計画を具体的に決めていきます。




3. 測量・設計します。

道路をつくる土地の状況を詳しく測量調査し、設計図面の作成などを行います。
なお、設計にあたっては、自然環境やユニバーサルデザインなどにも配慮しています。




4. 用地を取得します

道路に必要な用地を取得するために、土地の所有者に協力をお願いします。
合意した後は、お金（補償金）の支払いを行います。




5. 工事します。

設計に基づいて、道路や橋などをつくります。
工事には、土を盛るもの、トンネルを掘るもの、舗装するものなど様々あります。
最後に、道路標識などの交通安全施設を整備します。



6. 完成です！！

計画から工事まで、いろいろな方の協力によって道路ができあがります。
完成した道路は、快適に利用していただけるように維持管理を行っていきます。



☆次回予告

今回は、「道路にはどんな種類があるの？」と題し、道路の種類や維持管理について、分かりやすく紹介します。

